

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320105

研究課題名（和文） 中近世移行期における鉱山開発と地域社会の変容に関する研究

研究課題名（英文） Mining venture at shift period at the early modern age of the Middle Ages and research on transformation of regional society

研究代表者

池 享 (SUSUMU IKE)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：20134885

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・鉱山・地域社会

1. 研究計画の概要

(1)岩手県東磐井郡を主な研究対象として、中近世移行期の鉱山開発が、列島レベルはもちろん、鉱山を抱える村、それをとりまく周辺の地域社会において、鉱山開発がどのような社会的影響を与えたかを検討している。特に、開発・運営における出資者の実態、労働者の確保と移動、労働者にとっての鉱山の位置づけ、村にとっての鉱山の意義、鉱山と地域社会の関係性、に注目して考察を加えている。

(2)具体的作業としては、関連史料（鈴木家文書・畠山家文書・及川家文書等）を中心に、史料の整理、目録作成、翻刻作業を進め、聞き取り調査の成果とあわせて、実態分析を進める。

2. 研究の進捗状況

(1)平成18年度は、まずは各家の伝来史料の現在の状況について把握する調査を実施した。それにより、各家の伝来史料は、及川家文書（東北歴史博物館寄託）以外は未整理の状態であることが判明した。そのため、平成18年度は取り上げる史料を絞る作業を行い、重要と思われる史料について、史料の整理・撮影に多くの時間と経費を費やすこととし、一関市東山町の鈴木家文書の整理、撮影、目録作成を行った。

(2)平成19年度は、引き続き、鈴木家文書の目録作成を行うとともに、一関市室根町の畠山家文書の整理、撮影を行った。同町津谷川地域については、聞き取り調査も実施し、村の構造を知る手がかりを収集した。東北歴史博物館に寄託されている及川家文書についても、撮影・調査を実施した。

また、隣接する気仙地方の産金遺跡を研究する地元の研究会と連携し、産金遺跡を巡視する調査を行い、従来の研究では見落とされてきた産金遺跡の実態について説明を受けた。同様の遺跡は東磐井郡でも散見され、本研究においても、同研究会の研究成果を報告時に活かすことができると考える。

(3)平成20年度は、特に本研究で有用と思われる畠山家文書の近世初期史料を翻刻し、写真を整理する作業に重点を置いた。写真の整理と翻刻作業はほぼ終了し、連携研究者・協力者とともに内容の分析を開始した。適宜、研究会を実施して、その成果について話し合いを行っている。また、秋田県の院内銀山の巡視を行い、同時期の他地域における鉱山との比較史も進めることができた。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進んでいる。当初の計画では、一関市千厩町の白石家文書を中心に研究を進める予定であった。だが、同家の史料を一関市で整理に入ることになり、今回は同家文書の使用を見送った。他家の史料も全くの未整理だったため、資料整理に多くの時間を要したが、畠山家文書を翻刻することにより、独自の成果を示せる目途が立った。

4. 今後の研究の推進方策

畠山家文書の目録を作成するとともに、引き続き鈴木家文書の目録作成と、近世初期史料の翻刻作業を行う。両史料の分析を進め、連携研究者・協力者各自に与えられ

たテーマに沿った研究を進める。その際、一関市室根町津谷川地域の再調査が必要になることと思われる。そこで、できるだけ早い時期に再調査を行い、報告書作成の準備を行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

①

〔学会発表〕(計 1 件)

① 池享「戦国期の地域権力について」、近世史フォーラム、2008年10月11日、大阪
大阪市立総合生涯学習センター

〔図書〕(計 3 件)

- ① 池享、新日本出版社、『知将 毛利元就』
2009年、198頁。
② 渡辺尚志ほか編、岩田書院、『藩地域の政策主体と藩政』、2008年、344頁。
③ 渡辺尚志、柏書房、『百姓の力 江戸時代から見える日本』、2008年、243頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕